

## 「 神の救いとは 」

エペソ人への手紙 2章 8～10節

2022.8.21 浜寺礼拝

救いとは、神が人間を罪とその罪がもたらす永遠の滅びから救い出し、永遠のいのちを人間に与えて下さるといふ神のわざであり、全ての人間が真剣に考えなければならぬことです。

神のことばである聖書は、私たち人間が信じなければならぬ真理と行なわなければならない責任(歩み)とを教えています。

マタイ16：26「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得があらましよう。そのいのちを買い戻すするには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」

(参) マルコ8：36～37

私たち人間には、罪という問題があります。

罪とは

的はずれの生き方をすることです。

- ① 思いにおいても行ないにおいても神の命令に従わない
- ② 神を無視して自己中心に生きること
- ③ 神の聖・義に対する違反行為

ローマ3：10～12

Ⅱテサロニケ1：8～9

私たちは、「まことのいのち」を得るためには、自分の罪を悔い改めて、この罪がもたらす永遠のさばきから救われる必要があるのです。

神の救い

「救い」

キリスト教の福音の中心テーマは「救い」である。「救い」は危険と悲惨から安全な状態へ救出するという概念を表現し、(中略)キリストを信じるすべての者を罪と罪の結果から救う。これが福音の宣言である。

(J.I.バッカー聖書教理がわかる94章 P184)

A. 救いの内容

1. 救いは \_\_\_\_\_ である。

「恵みのゆえに、～救われたのです。」

それだけの理由で

〈恵み〉 **ギリ** カリス

人間の働き(行ない)に対する報酬ではなく、全く値しない者に与えられる神からの一方的な賜物であり、この恵みは、神ご自身のみこころによって与えられるものです。

ローマ3：24「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」

エペソ1：7「私たちは、この御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。」

Ⅱテモテ1：9

救いは、一方的に神から提示されています。

その救いを受けるに相応しくない者に「さあ、わたしの救いを受けなさい」と神が言われるのです。

ここには何一つ条件はありません。

Ⅰテモテ2：4「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。」

2. 救いは \_\_\_\_\_ による

「信仰によって救われたのです。」

〈信仰〉 **ギリ** ピステイス

神に対する全幅の信頼であり、神を信じ、受け入れ、従うことを意味する。

ヨハネ1：12「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」

- a. この行為は、全人格的な応答です。
- b. この信仰も、聖霊なる神の働きです。

Ⅰコリント12：3b「また、聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません。」

c. この救いは、イエス・キリストを通してのみ与えられる。

ヨハネ3：16

使徒4：12「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も人間に与えられていないからです。」

ヨハネ14：6「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

3. \_\_\_\_\_ よっては、救われぬ。

2：8「自分自身から出たことではなく」

2：9「行ないによるものではありません」

ローマ3：28「人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが私たちの考えです。」

ガラテヤ2：16a「人は律法の行ないによつては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によつて義と認められる」

アブラハムの例（ローマ4：1～3）

創15：6「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」

この救いによって、罪ある人間が新しい人に創り変えられるのです。

Ⅱコリント5：17「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ。すべてが新しくなりました。」

B. 救いの目的—救われた者の生き方—

「私たちは神の作品であつて」

この神の作品という言葉は、作者である神によって新しく創られたことを意味しています。

1. 誰によつてか

「キリスト・イエスにあつて」  
in

キリスト・イエスのわざによつてであり、それはあの十字架です。

Ⅰペテロ2：24「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」

2. 新しく造られた者は、どのように生きる（歩む）のか

「良い行ないをするために」

(～する)ために επι epi → 新しく創られた者のいのちの中に良い行ないを完全に組み込まれていることが強調されている。

ヤコブ2：26「たましいを離れたからだだが、死んだものであるのと同様に、行ないのない信仰は、死んでいるのです。」

「良い行ない」とは

a. 神が喜ばれる行ない（生き方・歩み）のことです。

5：8「光の子どもらしく歩みなさい」

5：10「主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」

「証明する」の意

コロサイ1：10a「主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ」

エペソ5：17「愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。」

神のみこころを知り、理解し、そして行なうことが、私たちの歩み(人生)において最優先すべきことです。

3. 神の配慮は全てにおいて完全です。

「その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」

ピリピ2：13「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。」